

第4回JCC産学交流セミナー「化粧品科学へのいざない」 セミナーレポート

2017年6月3日(土) 14:00~17:00 @東京理科大学富士見校舎4階F402

共催：東京理科大学研究戦略・産学連携センター 後援：東京理科大学総合研究院界面科学研究部門
参加者数：120名

化粧品を支える重要な基礎科学である「界面科学」および「皮膚科学」の視点から「化粧品科学へのいざない」をテーマに、国内外の専門家から化粧品の成立ち、使い心地、皮膚への作用に関する最新的话题を提供。

開会挨拶：JCC 嵩地 PM

東京理科大学 客員教授 坂本 一民 氏

講演① 14:05-14:30 「化粧品科学へのいざない」

東京理科大学 客員教授 坂本 一民 氏

化粧品を学びたい人にとって手引きとなる啓蒙書の編纂を目的に Elsevier 社から化粧品分野の研究開発の基本を俯瞰できる学術書を刊行。その中から日本語原稿を活かした書籍「化粧品科学へのいざない」について紹介。



講演② 14:30-15:00 「化粧品と感性工学」

山形大学大学院 教授 野々村 美宗 氏

ヒトが触覚を認知するメカニズムと、最先端の触覚センシング技術を概説。さらにこれを用いて水やオイル、化粧量のパウダーやスポンジ、さらにはヘアケア剤の触感・使用感を評価した事例を紹介。



講演③ 15:00-15:30 「化粧品への液晶とゲルの応用」

(株)コスモステクニカルセンター 執行役員 鈴木 敏幸氏

両親媒性分子の溶解挙動と会合体の形成、液晶と α ゲルの状態と相転移、入荷に及ぼす分子集合体の意義を解析。応用として β 分岐型アルキルリン酸アルギニンを例に α ゲルの安定化と α ゲルを用いたマルチラメラ型エマルジョン調製およびその皮膚保湿効果について解説。



講演④ 15:30-16:00 「化粧品科学の物理化学的基礎」

東京理科大学工学部 教授 酒井 秀樹 氏

界面活性剤のうちに分子膜構造を有する閉鎖小胞体であるベクシルに焦点をあて、各種ベクシルの基礎物性、これらのベクシルを用いた各種応用について紹介。



招待講演 16:10-16:50

「Physiological and Dermatological view of Cosmetic Science」

University of California, Department of Dermatology Prof. Howard I. Maibach

化粧品、医薬品の研究は歴史的にも双方向に活かされ、実践されているにも関わらず、現状として企業ごと、国ごとで規制も含め大きな隔りがある。これからのグローバルな社会に向けて、私たちは医薬品、化粧品双方の領域で共通の枠組みを作っていかなければいけないのではないかと、未来の化粧品産業に向けた提案があった。

